

# 医学用語あれこれ 5



浜口 恵子

さあ、今回から接頭辞に入りましょう。

接頭辞とは、語の初めにおかれる部分で、その語の意味を変える働きをします。その語を理解する鍵ともなり、よく使われるものですので、覚えておくと便利です。

hyper : 正常なもの以上の、それを超えた、  
～以上の、過剰

hypo : 正常以下の、～以下の、不全、欠損  
a, an : 否定(不、非、無)

※ 次にくる語が子音で始まる時は a、  
母音で始まる時は an を使う。

dys : 痛みのある、悪い、困難な

eu : 良い、易しい

hyper/thyroid/ism という語を考えてみましょう。thyroid は甲状腺 (thyroid gland) を指す言葉で、-ism は状態、理論を表す名詞接尾辞です。hyper は過剰を意味しますので、hyper/thyroid/ism は甲状腺の分泌が正常以上の状態、つまり甲状腺機能亢進症ということになります。hypo は hyper と反対の意味を持つ接頭辞ですから、hypo/thyroid/ism は甲状腺機能低下症です。

同様に、hyper/tens/ion を見てみましょう。tens/ion は緊張、圧力を意味しますが、この語はラテン語の緊張を表す語 tensio からきており、-ion は状態、行動を表す接尾辞です。この tens/ion に hyper をつけると hyper/tens/ion 高血圧(症) という語ができます。hypo をつけると hypo/tens/ion 低血圧(症) です。

esthesi/o は、感覚、気持ちを意味する語の連結形ですが、名詞形 esthesi/a にして hyper をつけると hyper/esthesi/a 感覚過敏、痛感鋭敏という語になります。hypo/esthesi/a は感覚の異常な低下、感覚減退を意味します。ところで、esthesi/a という語は“e”という母音で始まっ

ていますので、hyp/o をつけると hyp/o の“o”と“e”の2つの母音が重なってしまいます。このような場合、接頭辞の最後の母音は、発音上の問題から次にくる語の母音の前で脱落するのが普通です。したがって、ここでは hyp/o の“o”を落とした hyp/esthesi/a という形が一般に使われます。

この esthesi/a に否定を表す接頭辞 an をつけると an/esthesi/a となつて、感覚のないこと、無感覚の状態、つまり麻酔を表します。悪い、困難なを意味する dys をつけると、dys/esthesi/a 感覚の悪い状態、異感覚症となります。eu は良いという dys と反対の意味をもつ接頭辞ですから、eu/esthesi/a は感覚正常です。

息または呼吸を指す連結形である pne/o の場合を考えてみましょう。pne/o を名詞形 pne/a にして、hyper をつけると hyper/pne/a 過呼吸、呼吸亢進、hypo をつけると hypo/pne/a 呼吸低下となります。pne/a は子音で始まりますので、否定の a をつけると a/pne/a 無呼吸、窒息となります。dys/pne/a は呼吸困難、eu/pne/a は正常呼吸です。

kinesi/o は運動あるいは動作を意味する語ですが、hyper/kinesi/a は運動過剰(症)、運動亢進(症)、hypo/kinesi/a は運動低下(症)を表します。a/kinesi/a は運動不能(症)、無動(症)、dys/kinesi/a は運動異常(症)、運動障害、eu/kinesi/a は運動正常となります。

いかがですか？ 1つ単語を覚えるといもづる式にいろいろな言葉が出てきて、また思わぬ発見があったりして、おもしろいと思いませんか？ 医学用語を分解していくのはちょっとした謎解きゲームみたいで、気分はほとんど探偵！ だんだん覚えることが多くなってくると、頭が混乱しそうになりますが、楽しくやってみましょう。

はまぐち けいこ : 高槻赤十字病院図書室